

新曽地区 大規模雨水処理施設整備事業計画（戸田市）

（様式1）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>新曽地区（新曽第2、第10排水区）は、本市の中心拠点である戸田駅、また緊急輸送道路を担い都市軸である「市役所南通り」及び「北大通り」が位置するとともに、市の防災関連施設である消防本部を有し、都市機能が集積した地区である。</p> <p>当地区は既成市街地であるが、雨水整備率が他地区に比べ低く都市機能に影響を来す大規模な浸水被害が度々発生していることから、早急な浸水対策が急務な状況にある。</p> <p>このため、令和2年度に下水道浸水被害軽減総合計画を策定し令和3年度から事業着手している。</p>
整備目標	<p>①本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画における対象降雨：71.5mm/h（20年確率相当）</li> <li>・目標とする理由：平成17年9月に戸田市で記録した既往最大降雨：71.5mm/h</li> <li>・ハード整備による整備水準の目標：71.5mm/h</li> </ul> <p>②目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i)生命の保護の観点：特になし</li> <li>ii)都市機能の確保の観点：道路冠水の解消</li> <li>iii)個人財産の保護の観点：特になし</li> <li>iv)その他：特になし</li> </ul> <p>③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i)ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備により71.5mm/h（20年確率降雨）の降雨において、防災関連施設に面した重要路線（都市軸等）である「市役所南通り」及び「北大通り」における道路冠水の解消を目的とする。</li> </ul> </li> <li>ii)ソフト対策及び自助 <ul style="list-style-type: none"> <li>下水道管理者による内水ハザードマップ公表などの情報提供、自主防災組織による防災訓練の実施、土のう設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害をできるだけ小さくする。</li> </ul> </li> </ul>

項目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>有</b> (平成31年3月策定済み)</li> <li>・ 策定予定 (令和〇年〇月末策定予定)</li> </ul>			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨水貯留施設の整備 貯留能力 26,000m<sup>3</sup> 貯留管 (貯留量 26,000m<sup>3</sup>、内径φ6.0m、L=920m) ポンプ施設</li> </ul>
		ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 条例に基づく雨水流出抑制の指導</li> <li>・ 雨水貯留施設等 (雨水タンク) 設置費用の補助</li> <li>・ 排水施設の点検及び清掃</li> <li>・ 内水ハザードマップの公表</li> <li>・ 主要幹線の水位観測</li> </ul>
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土のうの配布及び効率的な活用方法についての情報提供 (戸田市危機管理防災課)</li> <li>・ 降雨量及び河川水位の情報提供 (戸田市危機管理防災課、河川課)</li> <li>・ 市内気象情報及び降雨量等をホームページにて公開 (戸田市危機管理防災課)</li> <li>・ 市報に防災関連記事の掲載 (戸田市危機管理防災課)</li> <li>・ ハザードブックの公表・配布 (戸田市危機管理防災課)</li> </ul>
	自助	ハード対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災資器材の備蓄 (市の自主防災組織補助金制度を活用) (戸田市危機管理防災課)</li> <li>・ 土のうステーションの設置 (戸田市危機管理防災課)</li> </ul>
			ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織による防災訓練の実施 (戸田市危機管理防災課)</li> </ul>

備考) 事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

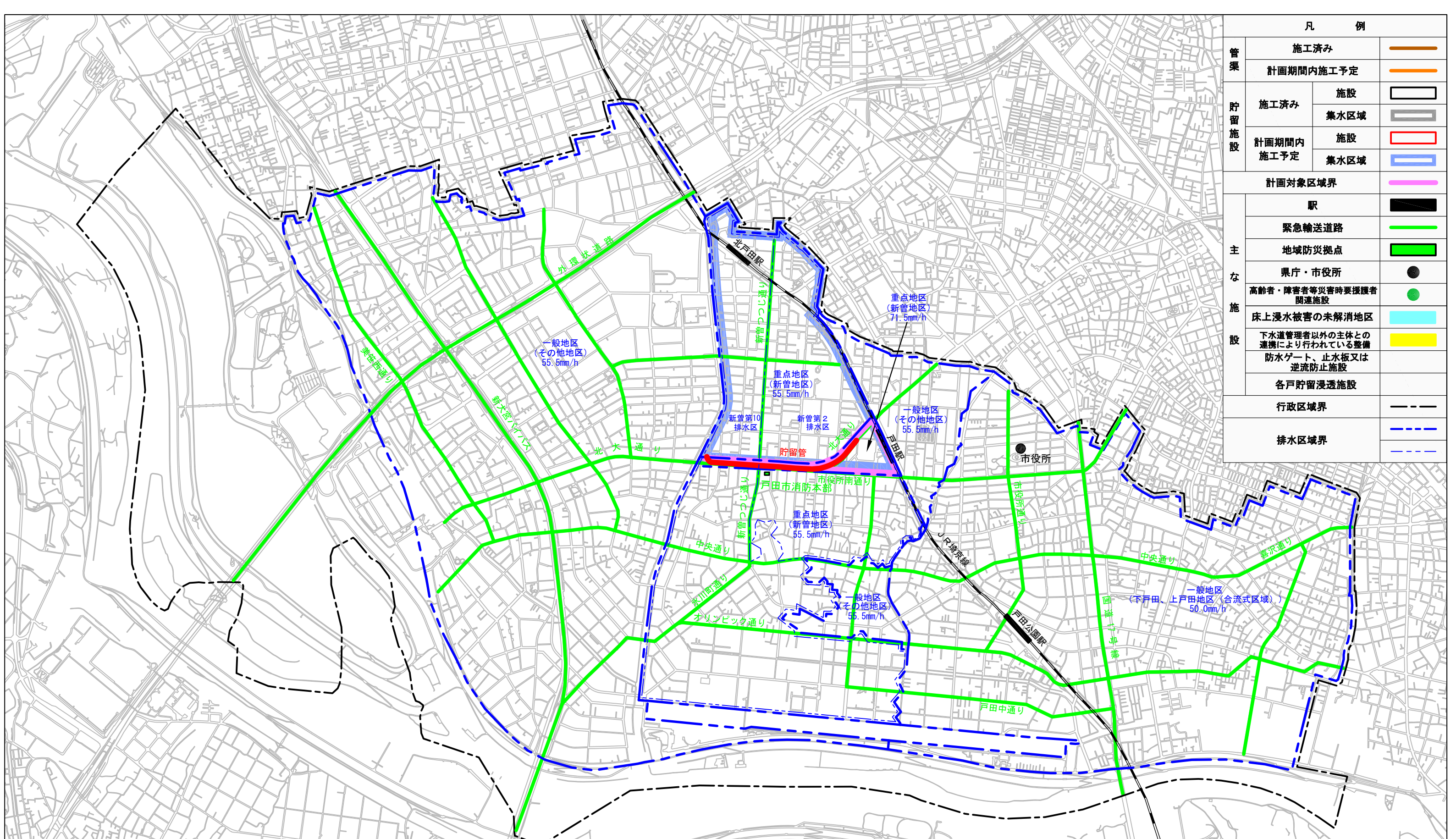
- \* 下水道浸水被害軽減総合事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設をすべて記載すること (別紙可、下水道浸水被害軽減総合事業の様式を参照)。なお、下水道浸水被害軽減総合計画を策定済みの場合は、その施設調書を添付すること。
- \* 下水道総合地震対策事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設整備を総合地震対策計画に位置づけること。
- \* 下水道施設の改築 (浸水に対する安全度の向上を伴わないもの) を実施する場合には、当該施設の改築を下水道ストックマネジメント計画に位置づけること。(総合地震対策計画に位置づけられている場合を除く)

年度計画（百万円）

名称	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計
雨水貯留施設	751.88	2,933.88	2,701.38	6,387.14
計	751.88	2,933.88	2,701.38	6,387.14

項目	内容・施策等
整備効果	<p>&lt;事業評価の内容&gt;</p> <p>浸水被害の軽減便益：1,661百万円が削減される。</p> <p>B/C：1.01</p> <p>経済的内部収益率：4.0%</p> <p>&lt;その他の定量的な効果&gt;</p> <p>都市浸水対策達成率（重点地区7.8ha：71.5mm/h）：0%→100%</p> <p>ソフト対策，自助の整備効果等：</p> <p>内水ハザードマップによる情報提供及び各戸における土のう設置等を併せて行い、浸水被害をできるだけ小さくする。</p>
放流先河川との調整状況	<p>本事業は、放流先河川の許容放流量に基づいた貯留管の整備を行うものであるため、放流先河川との整合は図れている。</p>
その他	<p>本市では、新曽地区の雨水事業計画において、放流先河川に対する許容放流量の対応として貯留管の計画をしている。そこで、既往最大降雨（71.5mm/h）に対応する貯留管と合わせて、2つの貯留分を1つの貯留管として効率的に整備を行うこととしている。</p>

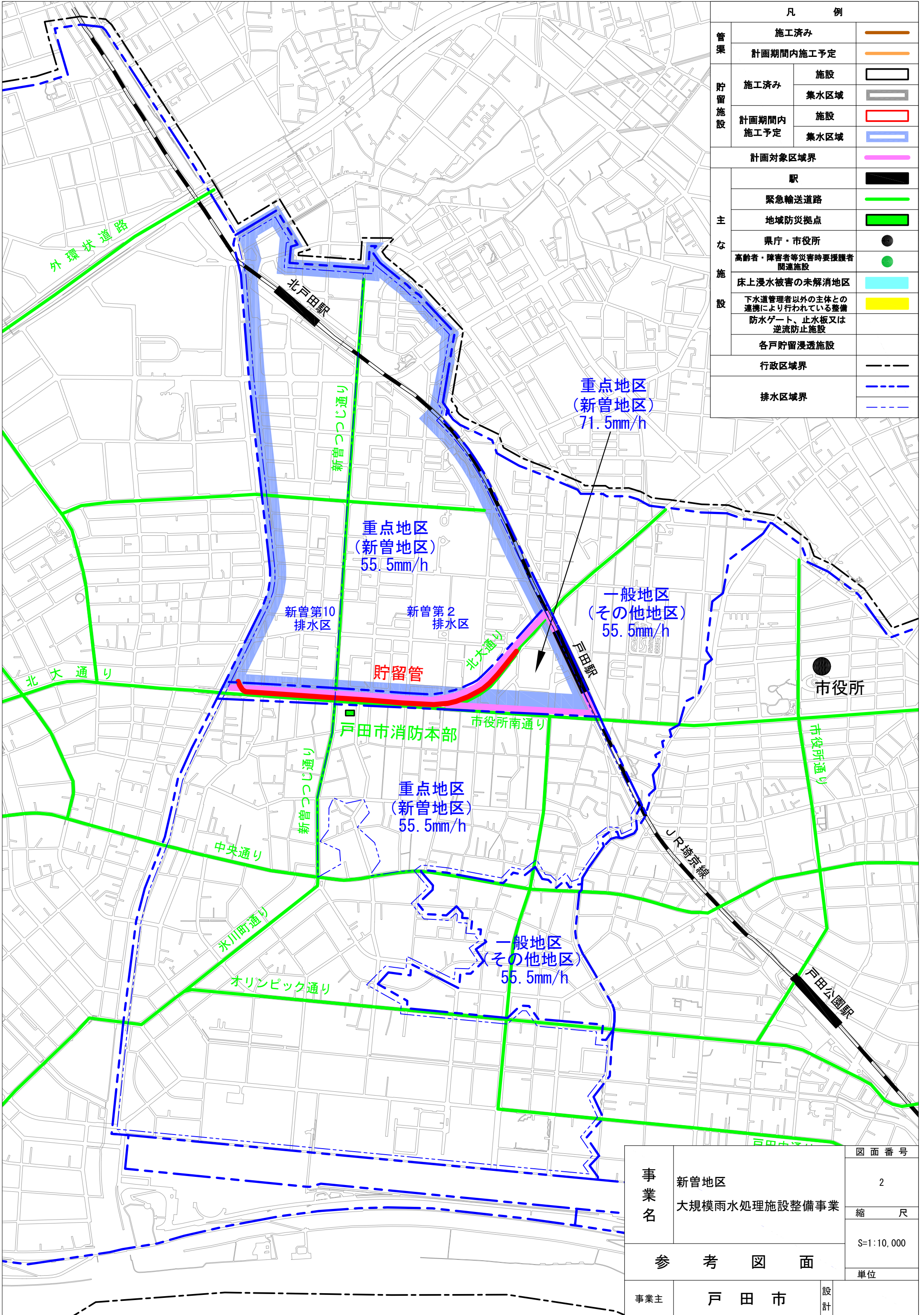




凡 例		
管渠	施工済み	
	計画期間内施工予定	
貯留施設	施設	
	集水区域	
計画期間内施工予定	施設	
	集水区域	
計画対象区域界		
主 な 施 設	駅	
	緊急輸送道路	
	地域防災拠点	
	県庁・市役所	
	高齢者・障害者等災害時要援護者関連施設	
	床上浸水被害の未解消地区	
	下水道管理者以外の主体との連携により行われている整備 防水ゲート、止水板又は逆流防止施設	
各戸貯留浸透施設		
行政区境界		
排水区域界		

事業名	新曽地区 大規模雨水処理施設整備事業	図面番号	1
		縮尺	S=1:20,000
参考図面		単位	
事業主	戸田市	設計	





凡 例			
管渠	施工済み	— (thick orange line)	
	計画期間内施工予定	— (thin orange line)	
貯留施設	施工済み	施設	□ (black outline)
		集水区域	■ (grey fill)
	計画期間内施工予定	施設	□ (red outline)
		集水区域	■ (blue fill)
計画対象区域界		— (pink line)	
主 施 設	駅	■ (black rectangle)	
	緊急輸送道路	— (green line)	
	地域防災拠点	■ (green rectangle)	
	県庁・市役所	● (black circle)	
	高齢者・障害者等災害時要援護者関連施設	● (green circle)	
	床上浸水被害の未解消地区	■ (cyan fill)	
	下水道管理者以外の主体との連携により行われている整備 防水ゲート、止水板又は 逆流防止施設	■ (yellow fill)	
	各戸貯留浸透施設	— (dashed blue line)	
	行政区域界	— (dashed black line)	
	排水区域界	— (dashed blue line)	

事業名	新曽地区 大規模雨水処理施設整備事業	図面番号	2
		縮尺	S=1:10,000
		単位	
参 考 図 面			
事業主	戸 田 市	設計	



# 新曽地区 大規模雨水処理施設整備事業 (戸田市)

- 新曽地区は都市機能が集積した地区であるが、過去10年間に9回の浸水実績があり、延べ浸水面積は9.3haに上る。
- 新曽地区大規模雨水処理施設整備事業により、貯留管及びポンプ施設の整備を行い、既往最大降雨(71.5mm/h)に対して道路冠水の解消を図る。



《過去の浸水実績》

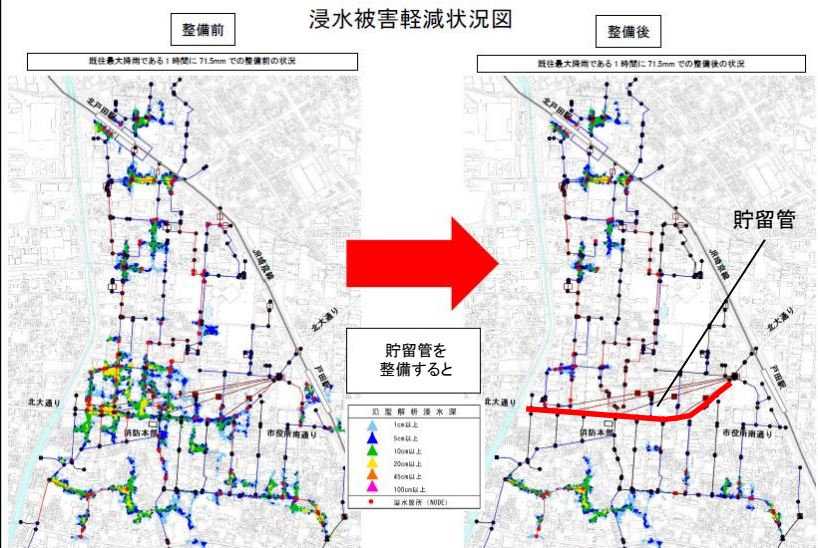
平成25年 9月	浸水面積	0.99ha
平成25年 10月	浸水面積	2.00ha
平成26年 6月	浸水面積	0.49ha
平成26年 10月	浸水面積	0.10ha
平成27年 9月	浸水面積	1.14ha
平成28年 8月	浸水面積	2.24ha
平成28年 8月	浸水面積	0.13ha
平成30年 3月	浸水面積	1.21ha
平成30年 9月	浸水面積	1.02ha

## 事業の概要

- 事業内容：雨水貯留管(26,000m<sup>3</sup>)ポンプ施設等
- 全体事業費：約64億円
- 事業期間：令和4年度～令和6年度
- 工事概要：シールド工 Φ6.0m 延長 920m

## 事業の効果

- 既往最大降雨(71.5mm/h)の雨量に対し、地区の道路冠水を解消。
  - 生活環境の改善、災害時における防災機能を確保。
- B/C=1.01



## 過去の降雨による浸水状況

